

# 光といのち

第102号

一秋彼岸一

2016年9月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

E-メール info@syozenji.or.jp

URL http://syozenji.or.jp/

住職 釋孝昌

法語

自信教人信

善導大師



法敬房順誓という方のお話が『蓮如上人御一代記聞書』にありま

もなお難しい。しかし仏の大悲はどこまで弘がっていき、すべてのものを教化してくださる。真に私たちはその仏恩を報じていくほかないのである。『解説教行信証』と述べていらつしやいます。「自信教人信」は、阿弥陀仏（如来）のお仕事だ。この文章を書きつつ、なぜかご門徒の皆さん、お一人おひとりのお顔が思い浮かんでまいりました。

題字下の法語は、「自ら信じ人を教えて信ぜしむ」と訓読します。

本願念仏の法（浄土真宗）を自ら信じ、人にも教えて信じさせるという意味です。

この言葉を私が初めて知ったのは、24歳の頃、今から38年も

## 秋彼岸会

九月二十二日（木）

秋分の日

十時～十一時半

足達 崇 川名 喜法 田中 嘉一  
田村 晋一 富澤 眞知子 の皆さん  
で、9月5日（月）に曼珠沙華の球根を植えた場所の草刈りをしました。その列名のようにお彼岸の頃、花を咲かせお参りの方々に見ていただくのでしよう。

前になります。住職の資格を得るため東京大谷専修学院で学んでいた時のことでした。

当寺の私は、「僧侶」を訝（いぶか）しくまた高慢な者と嫌っていました。その自分が僧侶になる勉強をしなければならぬという矛盾を生きていました。

私のその思いを破ってくれたのが、この言葉でした。僧侶の務めは「自信教人信」にある。呪術者のようにお経を誦することではない。それなら僧侶になってもいいかなと。

今年、住職に就任し10年目になります。今あらためて「自信教人信」という言葉の意味を考えさせられています。

寺が、自信教人信の場、すなわち聞法道場となるよう、住職が進んで聞法しご門徒の皆さんにそれを勧める活動を続けまいりました。しかしそれが「自信教人信」なのかと。

ある人が法敬房に、「あなたは自信教人信の誠を尽くしていらつしやるようだが、坊守さんの無信心はどうしたわけですか」と尋ねました。



で、蓮如上人から「法敬」という名をいただいています。

今この寺の活動に、賛同してくださる方、批判的な方、あまり関心のない方、様々な方がおられます。そして、いろいろなことがあつて、今があります。参加協力してくださる方ばかりが今を作ったわけではありません。反対拒絶された方々にも支えられてきたのでした。

連れ合い一人教化できていませんねと、厳しいご指摘です。法敬房は、「私は朝と夕のお勤めを欠かさず『御文』も拝読しています。しかし、かつて私を目覚めさせた『御文』の言葉も、「またこのことか」と今では思い、以前のようには驚き喜びを感じることがありません。どうしてそんな私の言うことを坊守が聞き入れることがありましようかと、応答されました。

「自信教人信」は、私の分限ではない、ということでしょう。親鸞聖人は、「自信教人信」について「自ら信じ、人に教えて信じさせることは、難しい中に

悲を、今そこに感じています。真に私たちがその仏恩を報じていくほかないです。南無阿弥陀仏



南無阿弥陀仏



水島見一師は、大谷大学博士課程で学ぶ副住職井上泰之の先生です。来年2月4日(土)5日(日)に当寺でお話しくさいます。

### 母のこと

母は大正八年生まれでありますから、今日生きておれば、もう九十歳を超えています。母の父親は高光大船でした。ある日、高光大船が、「この男と結婚せよ」と言うわけです。母は、何の疑問も抱かず、父の言いなりです。母は昔の人です、今日の人のように「私の人生だから私が選ぶ」と力まずに、親の言うとおりに人生を歩むのです。母は何の疑問も抱かず、警察官を職業とする父と結婚したのです。(略)

私の父の生活はまさに貧乏のどん底で、さらに前妻との間に一人の娘がいたので

ついていたのですが、その時に「痛い」と言つて泣くのです。すると近所の人々が、「やっぱりあの人はほんとうの母親ではないから、娘に冷たいのだね」と噂をするわけです。多感な年頃の娘は自分の居場所を求めますので、誰でもいいから同情して欲しいのです。「あなた、可哀相」とか「ほんとうの親でないから、苦労だねえ」と言つて欲しいのです。このように娘は人から同情を得ようとします。また家で叱つても、家の中で泣けばいいものを、わざわざ外へ出て泣くのです。すると同情が集まります。このようなことは、娑婆にはたくさんあります。しかし、母も娘もどちらも悪くないのです。母はいいお母さんになろうと思つて嫁いだわけであり、多感な年ごろの娘は自分の存在を賭けて、必死に自分の居場所を主張したいわけですから、どちらも宿業としか言いようのない人生を歩いているのです。誰も宿業に対しては点数を付けることができないのでありまして、如来から見れば、それぞれが百点満点の人生を生きていくということがあります。

そういうことで母は、義理の娘に大変に苦労したのです。嫁ぐ時には立派な母親になろうと意気込んで嫁にいつたそうですが、そのような理想は、業因縁によって、全て空しく崩れてしまったのです。するとふとした時に、「この子はほんとうの私の子ではなかった」ということに気付いたそ

す。貧乏で義理の子持ちの(略)警察官に、高光大船は自分の娘を嫁がせたのです。私の父はというと、非常に仏法に熱心な人でした。娘の小学校の時の書き古したノートがあり、そのノートに毛筆で、『清沢満之全集』や『暁鳥敏全集』などを友達から借りてきて、書き写していたのです。そのノートを私は、今でも大事に持っています。それを見ますと、父はほんとうに熱心に聴聞していたものだなあと思っています。

聴聞とはそういうものでないでしょうか。仏語を書き写すというのが聴聞です。決して新しいことを知る必要もないわけでありまして、先学の言葉を書き写すということも大事な聴聞です。父はそのようにずっと聴聞をしていたのです。その警察官が履歴書一枚持つて、「先生の娘さんをください」と高光大船をたずねたということです。高光大船は、「履歴書をもつて娘を貰いに来た。この男は変わった奴だ」ということで、結婚を認めたようですが、実際はおそらく、在家の身で警察官でありながら、真面目に熱心に聴聞している姿に感心したのだろうと思います。

その時、高光大船は娘に何を言ったかといひますと、「苦労はいいもんや」です。「苦労はいいもんや」ということを娘に言い聞かせて嫁がせたのです。私にも子どもが一人、娘がおりまして、幸いに結婚すること

になりましたのでホツとしていますけれども、私は「苦労はいいもんや」どころではないのです。なるべく苦労のない家庭に嫁がせようと思つて考えます。変な男に捕まったら具合が悪いか、その男の生計は大丈夫かとか、そういうことを考えますが、高光大船は違っているのです。「苦労はいいもんや」と言うのです。高光大船は百パーセント、人生を信じきっていたのです。

### 事実に聞く

ともかく私の母は、子どもが一人いるところに嫁ぐわけで、苦労することは目に見えていました。義理の、それも多感な年頃の娘というのは大変です。ほんとうの親子であれば、怒つても親子ですから、どこか通じ合うところがあるはずですが、どこか義理の子というのは、怒つてもどこか怒り切れないところがあるのです。ほんとうに怒つたら親子関係が崩れるのではないかと気になります。母はよく、「実の子どもほど楽なものはない」と言っていました。だから私はよく怒られました。しかし、子どもにとつても実の親ほど楽なものはないのです。どこかで甘えられるし、苦労も無条件で共有することができます。

昔はお風呂といひますと銭湯です。銭湯では子どもは親に頭を洗ってもらいます。義理の娘も同様に、母から頭を洗つてもら

うです。母は間違いない事実には気付いたのです。「自分のほんとうの子どもではない」ということがわかつた途端に肩の力が抜けた。楽になつた」と言っていました。

私たちが救われるのは、事実を事実と知ることから、たとえば癌になりますと「死ぬまで生き甲斐を持つて頑張つていこう」というのは仏道ではないと思ひます。仏教では、「私は死ぬのだ」という事実を頷くことが救いです。ですから、死ぬまで頑張らなくていいし、頑張つても死ぬ時には死ぬのです。死ぬ縁があれば死ぬだけのことであり、そのような絶対的な事実には、私たちは「そうだったか」と頷ければ、そこが救いなのです。死ぬということは宿業因縁であり、如来回向の事実です。だから死ぬことに頷くということは、如来に頷くということでもあるのです。ここに絶対的な救済があるのです。それなのに多くの人は、「私は癌と闘つて必ず帰ってきます」と言ひますし、それを世間では勇敢だと讃えるのです。しかし、実際は死ぬ時には死ぬのです。仏教は「私は死ぬ」という事実には、「はい、そうでありました」と頷くことのできる教えです。如来から私に与えられた、帰命無量寿如来の最後の試験です。これが仏教の救済だと思ひます。これが生死を超える道です。一切の事実は如来回向なのです。

『苦労はいいもんや 聞法の生活』より)

### 私にとつての水島先生

副住職 釋泰昌(井上泰之)

小学校、中学校、高校、そして大学での学びは、様々なものを吸収して、それを生かし自分を高めていくものであろう。しかし、仏教はその逆のようである。自分に纏ひ付く余計なものを剥いでいく。それが聴聞だと思ふ。それは自分を固めていくものでも、より良い者になつていくことでもない。身軽に、身体が喜ぶのである。ところが、その聴聞において必要不可欠なのが先生存在である。それも単なる先生ではない。自分のことを頭から叱責してくれる先生である。それは、私の腹の底にある、到底人様には公開できないような業を拂り出されることであると思ふ。それも、事ごとに、である。だから、親鸞が生涯法然ただ一人を師と仰いだように、真宗では色々な人から聞く必要はないのである。一人の先生を持ち、その先生から深く聞くことが大切なのであると思ふ。

今日はわかりやすい仏教が流行る。けれども、仏とは私たちを超えたものであるから、その教えがわかりやすくなるはずがない。むしろ、わかりやすいのであれば誤魔化しの教えかもしれない。だから、聞いてわからないほうが普通なのかもしれない。難しくしているのは自分自身である。わからないのは自分の聴聞不足である。

つい数年前までは、このよつなことを思わなかつた。水島先生に徹底して怒られたというところが大きかつたのだと思ふ、それは今も継続中である。だからこそ、先生に聴聞し如来回向の事業をハッキリさせなければならぬと思つたのである。



## 千葉組団体参拝旅行

### 参加者募集

— ゆつくりのんびり —

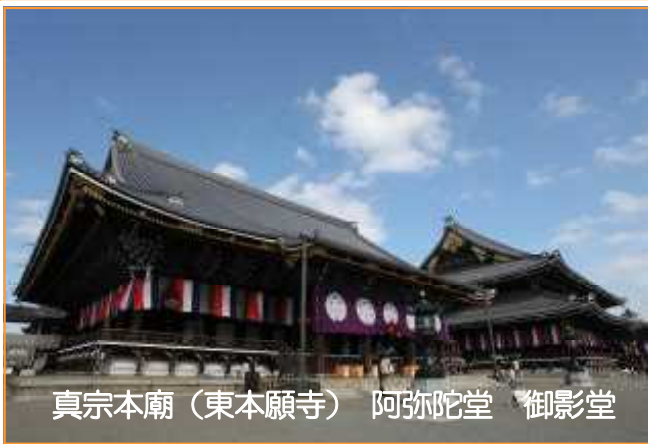
来年5月22日(月)〜24日(水)

参加費 79800円

申込 2月28日まで

※先着120名

京都北陸金沢方面の親鸞聖人ゆかりの地を訪ねる120名の旅に出かけませんか。詳しくは、寺までお問い合わせください。



真宗本廟 (東本願寺) 阿弥陀堂 御影堂

## 千葉組親鸞教室

「和讃をいただく」というテーマで親鸞聖人がお詠みになった御和讃をテキストに海法龍先生がお話しくださいます。

### 実施日と会場

9月16日(金) 千葉市浄願寺  
11月14日(月) 佐倉市了因寺  
1月18日(水) 船橋市法音寺  
3月10日(金) 船橋市阿弥陀寺  
5月15日(木) 当寺  
6月12日(水) 市川市即隨寺  
時間 13時〜16時  
参加費 10000円  
住職がご一緒にします。

## 千葉組婦人研修会

女性のための聞法会です。不遠寺住職四衛亮(よつつじあきら)先生がお話しくださいます。

### 実施日

第一回 12月9日(金)  
第二回 6月9日(金)

会場 市川市即隨寺

時間 13時30分〜16時

参加費 5000円

坊守がご一緒にします。

## 報恩講に向けて

師(しん)真(しん)真(しん)海(どどみ)百々海(どどみ)に法話をお願いしました。東京都港区了善寺の住職で、私の親しい法友(仏法を縁とする友人)です。



昨年の報恩講

私たち真宗門徒の最も大切な法要です。万障お繰り合わせの上、お参りください。

### 一、当番地区

二部下・検儀谷地区

一、準備 ※13時30分から

役員会 10月18日(火)

世話人総会 10月23日(日)

仏具お磨き 11月15日(火)

前日準備 11月18日(金)

### 一、法要

速夜法要 11月18日(金)

晨朝法要 11月19日(土)

日中法要 11月19日(土)

準備終了後 6時30分〜

10時30分〜

## 定例法要

※10時〜11時30分

修正会 1月2日

春彼岸会 春分の日

花まつり 4月2日

盂蘭盆会 8月10日

秋彼岸会 秋分の日

## 毎週行事

月曜朝のお勤め 6時半〜

「正信偈」などの同朋唱和

「御文」拝読 三分間法話

## 勝善寺同朋の会

### 実施日と時間

10月9日(日) 14時〜16時

12月11日(日) 14時〜16時

大谷大学水島見一先生ご法話

2月4日(土) 午後

5日(日) 午前

5月7日(日) 14時〜16時

6月4日(日) 9時〜11時

※6月は、八日講十日講と合同です。

7月23日(日) 14時〜16時

参加費 5000円

## 地区聞法会

### 八日講十日講

1月8日(日) 9時〜11時

6月4日(日) 9時〜11時

※6月は、同朋会と合同です。

中佐久間講 5月12日(金) 13時30分〜15時30分